

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500675		
法人名	有限会社介護センター田中		
事業所名	グループホーム渚園		
所在地	津市柳山津興382-4		
自己評価作成日	令和4年10月14日	評価結果市町提出日	令和4年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470500675-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和4年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

渚園では、入居者と職員が共同で生活をしていく事をコンセプトに、その人の輝く場を作っている。
出来る事が少なくなって来ている人も、職員と一緒にいることで安心感を持ち、笑顔が生まれるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建てで落ち着いた雰囲気のある事業所は、海の駅として有名な「津ヨットハーバー」、梅で有名な「結城神社」、美味しいケーキ店、中華料理店、スーパーなど全てが歩いて行ける程近くにあり、食事や外出が充分楽しめる環境の中に建っている。支援に関しては、ふっと外へ出掛けてしまう入居間もない利用者のために、コロナ禍で色々な制限のある中、ご主人や他の入居者、入居者家族などの協力を得て、ご主人とふたりで和室で過ごしたり、庭の草刈り、土いじりからコスモスを育てたりと、ゆったりとふたりで過ごす内に、穏やかな生活が出来るようになった。今では笑顔が増え楽しく過ごしている。今秋はそのコスモスをみんなで楽しむ事が出来るなど、気負いなく自然に認知症の方への支援が出来ている。また一人ひとりのレベルに応じた個別リハビリにも力を入れている。それも職員から自然にやり始めたもので、今では事業所の誇りと自信になっている。笑顔を増やせず、色々な問題にチームで取り組む等職員の質の高さが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で「自分らしく暮らす」の意義を踏まえ、職員間で理念の共有を行い、利用者が自然な形で生活していくことを目指した支援を心がけている。	「できる事をしてもらう事によって自信を持ち心身共に健康を保つ」を法人の特徴として挙げ、事業所としてはその特徴を基本として「年をとっても地域の中でゆったりと生活が出来るように共に支えあっていく」を理念に挙げ確実に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で自治会の行事には参加できず、ボランティアの受け入れも中止しているが、中学生の職場体験や短大生の実習は受け入れている。	介護保険法が設立された2000年からの開設である。地域との生活の大事さを理念に掲げ関係性には力を入れて来て、強靱な協力体制が整っている。また地域にも大事な事業所として位置づけられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人と家族の会で相談を受けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響もあり、開催できていない。	利用者の情報や、事業所の取り組みに対する状況報告と反省などは日々の支援時に話し合ったり、毎月の会議で報告している。また記録も残しているが運営推進会議参加者には報告していない。	日々の支援はチームで取り組みレベルも高く、利用者の安心と笑顔に繋がっている。議事録を参加者・家族全員へ提出し、感想・気付き・意見等を聞き、更なる向上に繋がることに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議も開くことが出来ないため、市との関係も薄くなっているが、介護保険でわからない事があると電話で聞いたりしている。	事業所の前身は医療施設である。その頃から行政との繋がりがあり、現在の事業所にも活かされている。地域にも行政にも事業所にもしっかりと体制が取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容をすべての職員が認識し、やさしい声掛けや気配りを心がけ、支援に取り組んでいる。実践の場で職員一人一人が利用者目線を検討したりして、身体拘束にない支援に取り組んでいる。	身体拘束委員会の設置、職員への研修会、また関連する資料や議事録の作成などは出来ている。だが一番は日々の支援時に「なぜそれはダメか」「変わりは何をしたらいいか」など職員の安心と自信に繋がるような話し合いが出来る環境が整っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、身体拘束をしてはいけないことを理解しており、ミーティング時にも話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一人の利用者の中に成年後見制度を使っている方がみえたので、勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改正の際は、十分理解し、納得していただけるよう、きちんと口頭、文章等で説明し、その後もいつでも質問ができる体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の状況を担当職員が毎月、季節の一筆箋に記入して送付している。利用者が電話する手伝いをしたり、運動量が足りないと思われる利用者には、個々にあたりハビリや散歩を実施している。別件で家族に電話をした時も必ず現状を報告し、意見交換にも努めている。	コロナ禍の中、家族の面会や行事への希望が叶えられる状況ではないが、事業所とはライン等での話し合いが出来ている。今後はアンケート等から家族の生の声を聴き反映させ、更なる安心と信頼に繋げる予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者だけでなく、他の職員・パートにも気軽に意見を言い合える職員会議をすることで、よりよく利用者のADL改善になる。	利用者には担当職員が付き、残存能力の維持と向上の為に何をすべきか考え個別メニューを作成している。そこから全利用者へ自然と広がりチームで取り組み、「個別リハビリ」として事業所の自慢になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の努力や実績、勤務状況をきちんと把握し、働きやすい環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行ったり、外部研修に参加したりして、各々が技術を向上している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会に加盟しており、研修・勉強会に参加するなどし、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネと連携を取り、本人の様子を把握したり、家族に情報を書いていただく書類をつくり、協力してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族に来園していただき、今まで頑張ってきた事、要望や思い、困っている事、不安な事等を伺って、信頼関係が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族、ケアマネの話をよく聞き、適切な支援を見極め、よりよいサービス利用ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事をしていただき、職員と一緒に暮らすことを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人にとって家族がかけがえのない存在である事を充分理解している。本人と家族の絆を大切にしながら、家族と共に、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でもこれまで通り、花見や散歩等続けていく。面会も2メートル離れて、感染予防を講じたうえではあるがしていただいている。	一番の馴染みの人は家族であるがコロナ禍で難しい。だが一人ひとりについている職員がダンスの中の片づけやほつれ直しや思い出などを話し、馴染みのような関係が出来ている。個々には美容院・洋服屋・靴屋等との関係を継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の悪い人もいらっしゃるので、職員が間に入って調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた方の家族の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	耳が聞こえにくい利用者には、聞き取れなかった場合、筆談をするなど配慮する。家族や本人の思いは、優先し尊重する。	夜勤帯等に話しや様子を見て思いや意向を聞き取ることがあるが、日々の支援で機嫌が悪くなったり落ち着かなかったり食欲がない時などは原因を考え、支援方法を見つけ出し実行する等、利用者本位を重きに置き実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の想いや希望を職員間が会話の中で把握するように努め、利用者様の真のニーズの探求を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりによく目を配り、日々変わる体調、心身状況を把握し、出来る事はしていただき、出来ない事は、無理のない範囲で出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制であり、担当者が利用者や家族と話し合った内容などは、グループラインで流し、職員全員が一日一日を把握している。	職員の日々の支援から要望や目標を見つけ出し、会議で主治医の意見や看護師・介護支援専門員と話し合いで介護計画を立てている。日頃の職員の支援からの気づきが利用者の想いに最も近く、充実した内容の介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果、気づいた事などを個別に記録し、職員間で情報を共有して、ケアや見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、面会が困難になった時は、電話やメールなどで本人の様子を知らせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年コロナの影響で外出をひかえているので、出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人の方は、入居前からのかかりつけ医の受診を家族が協力していただいている。他の方は、訪問医療で体調を見てもらっている。	2ユニットで2人が今までのかかりつけ医である。他は事業所の協力医であり、月2回の訪問診療である。かかりつけ医も協力医も24時間体制が取られており、利用者・家族・職員への安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から本人の体調を把握し、看護師に伝え、看護師が情報を確認する。必要であれば、かかりつけ医より指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、早急に本人の情報提供を行い、病院関係者との情報交換に努めている。また、そうした場合に備えて、日頃から病院関係者との良好な関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の場合、コロナ禍であっても、十分に配慮した上で面会は行ってほしい。	入居時から家族への説明と話し合いは出来ており、看取り状態になっても体制は整っている。今年度は4人の看取りを行った。ある利用者は「看取りに入る」と主治医に言われたが手厚い支援の成果が、段々と食事が出来、入浴も出来、今は元気に過ごしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員から救命講習を受けたり、研修で習ったことを職員間で伝え合っている。緊急時に対して話し合い、実践力を身につけるよう、心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練や勉強会、持ち出し品のチェック等を行い、体制を築いている。	近くの海には新しい堤防もでき、日々の避難訓練、消防や地域住民などからの協力体制も整っている。今後は夜勤時の訓練についてのマニュアル作成と、夜間体制の訓練を増やす予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけに注意している。	外部講師による研修で勉強しているが、日々の支援中にホーム長や管理者からの質問や考えから気付くことが出来る環境であり、日頃から尊重とプライバシーには気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係の構築に努めている。本人が気軽に思いや要望を表したり、自己決定ができるような環境づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、本人の希望を重視している。希望に添えない場合は、必ず説明し、了承を得るまで、話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの生活が維持できるように、化粧品を揃えたり、定期的な散髪、日々の髪型のセットなど、その人らしい身だしなみやおしゃれに心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ができることを手伝い、感染予防に気を付けながら職員と一緒に料理をしている。誕生日には、希望を聞いて献立に反映させている。コロナ禍でない頃は、外食にも行っていたので、今後も十分に配慮し家族の意見も聞いて、実施していきたい。	週3回利用者と買い物に出かけ、その材料を使いメニューを考え、利用者と一緒に作っている。利用者は個々で出来る事をしている。野菜中心で品数も多くとても好評である。誕生日やお正月など特別料理も楽しみのひとつである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、栄養バランスを考えながら献立を決めている。一人ひとりの状態や食べる量と形態を把握し、職員間で情報を共有して、個々にあった支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力に応じて自発的に口腔ケアをして頂いている。同時に口腔内の状態をチェックし、不具合などがあれば、随時歯科医往診の依頼をしている。義歯の方は、夜間預かり、洗浄液につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している利用者には、トイレでの排泄が維持できるよう、声掛けや見守り等、安全面も考えながらトイレ誘導をしている。	第2ユニットは殆どの利用者が見守り支援であり、車椅子の利用者もほぼ自立である。第1ユニットは布パンツが2名、他の利用者はリハビリパンツであるが、自立に向けた支援を心掛け快適に過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に気を付けたり、乳製品・食物繊維の多い食品等を取り入れることにより、便秘予防をしている。また、毎日の運動や腹部マッサージにより、便秘の解消に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番等も考えながら、利用者の方にお声がけをし、気の合う利用者様と一緒に入浴をしていただいたり、工夫をしている。	週3回入浴しており、二人同時に入れる位の大きな浴槽である。すぐ隣の住民から鬼ゆずを毎年頂き、鑑賞や絵に書いたり楽しんでる。ゆず湯には小ぶりのゆずで楽しんでいるが今年は鬼ゆずで楽しむ予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、昼夜逆転のない生活習慣づくりに努めている。昼間眠れなくても、ベッドで横になっていただくなど、個々に合わせて静養も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々のカルテに内服薬の詳細が記載してある用紙があり、全職員が理解している。状態の変化があれば、看護師・かかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴に合わせた楽しみ事を考え、お誕生会を行ったり、家族と一緒に習字やお花をやってもらったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナの影響でほとんど外出はできなかったが、ヨットハーバあたりまでは感染者が少ないときは散歩に行ったりしたので、少しでも体力が落ちないようにしたい。	恒例の海までの散歩を始め、今年は結城神社の梅やコスモス畑へ見学に出かけとても喜ばれた。近所のパン屋へも出かけパン屋の庭で、自分で買ったパンを食べるなど昨年できなかった外出を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は、家族と話し合いのもと、お小遣いを持っており、いつでも使えたり、自己管理ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話ができる方は、いつでも自由に電話がかけられるようにしている。また、出来ない方は、職員が介助し、会話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ内には物を置かず、排泄に集中出来るようにしている。フロアに花をかざる等して、生活に潤いができるように支援を心がけている。	木がふんだんに使われ、収納も多くきれいに片付いている。台所とリビングが大きな一つの空間になっており、利用者の様子も一望できる。明るく優しい光が利用者を包み込み、ずっと過ごしたい想いになるのか、ほとんどの利用者がフロアで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには椅子やテーブルを置き、居場所の提供に心がけている。テレビ前のソファでは気の合う者同士で、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好きなものを置いたり、色塗りされた用紙や紙のカレンダーなどを部屋に飾っている。	表札は毛筆文字で書かれており、落ち着いた雰囲気である。ペット以外は一人ひとり好きな物や落ち着く物、思い出の物などをレイアウトしている。担当職員と一緒に片付けたりしながら「自分の部屋」を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を把握し、自立に向けた心を心がけている。椅子もひじ掛けが必要な方には、ひじ掛け椅子を用い、本人が自分で食事できるように支援している。		